

富士市長との懇談会（10月9日）の話題について（案）

富士市のゴミを考える会

1. 第1回提言書のその後の取扱について

5月23日に「富士市のごみ問題解決に向けての提言（第1回目）」をさせていただきました。本件は、その後どのような取扱となっているのでしょうか。

「生ごみの堆肥化促進」、「イベントにおける食器デポジット試行」、「生ごみ処理ガイドブック作成」、「母子手帳配布時の環境パンフレット同封配布」等々、現在の進行状況をお聞かせください。

2. ゴミ減量化推進に向けた市長直属組織の発足を！

平成14年度 富士市のごみ排出量は、事業系については市の取り組みが効を相してか、全体で1%の減量になりましたが、家庭系については、まだまだの感があります。

沼津市、富士宮市、由比町、蒲原町等、周辺自治体が次々と独自のごみ収集方法を確立していく中、誰のごみでも持っていつてくれる富士市には、仕事ついでや中にはわざわざごみを捨てに来る人たちがいると聞きます。これでは、富士市民の税金を使って、他自治体の心無い人々のごみを処理していることとなります。

ごみ減量に成功している自治体は、トップダウンでごみ減量化専属の組織を持ち、行政・市民・事業者三身一体となって取り組んでいます。

富士市においても、先般ごみ減量化に向けての進行管理体制が見直され、「既存の減量化等推進審議会」「新設の庁内の実践会議、運営管理市民の会」の三本建となる予定と聞いております。このようになると、それぞれの組織がそれぞれ独立した機能を発揮しがちとなり、総合統括組織が必要となると思います。その機能を廃棄物対策課に期待するならば、日常の管理運営職務が多い一方、現状の人員数を考えると、機能に限界が見えます。各独立チームを統合一体化して、スピーディに発想豊かな全市的に強力な行動に纏め上げていくには、それらをまとめる強力なヘッドが必要です。そのためには、それぞれの専門チームの代表を市長直属メンバーとして集め、ここに市長代行権限を与え、ここでの決定事項は市長意向であるとして、各チームに持ち帰り行動していくという方法を取る必要があると思います。折角組織された3つの専門チームの特色をを最大限に活かすためにも、この種の市長直属組織の更なる新設を行なって、3つの組織の機能が十分に活かせるよう取り計らうことを提案いたします。

3. ごみ減量化市民ワークショップ開催について

現行の廃棄物減量化等推進審議会には市民代表も多数参画していると聞いています。しかし、委員募集時の倍率は8倍以上であったと言われ、委員以外にもごみについて勉強している人は多く、そういった多くの市民の意見を吸収し、審議会をより充実させていく必要はあると思います。

廃棄物減量化等推進審議会審議が佳境の段階に入っている現在、「ごみ減量化市民ワークショップ」（仮称）を開催し、これらの市民をごみ減量化の議論の輪の中に巻き込み、市民の英知を結集していけば、市民全体の意識を更に高めることにもつながっていくと思います。

4. 生ごみの分別収集・資源化、し尿汚泥の資源化により、先進環境都市富士市の建設を！

生ごみは、富士市においてもごみ全体の40%以上を占めており、また、ごみ全体の55%程度は水分です。これがごみを燃えにくくしている大きな原因です。紙やプラスチックの分別も必要ですが、これを先に行ってしまうと、燃えにくい生ごみが残し、環境汚染を起こさないように燃やそうとすると、助燃剤がたくさん必要となります。

生ごみ分別収集は、大都市圏では難しいとの大方の意見ですが、カナダのノバスコシア州の36万都市ではそれを見事に実現しています。北海道滝川市のバイオマス発電でもそうですが、先進的な環境への取り組みは、観光資源にもなります。

新環境クリーンセンターの建設計画のケース設定の中には、し尿汚泥の焼却比率が20%以上を占めているものがあります。生ごみとし尿汚泥を資源化できれば、燃やすごみは半分以下にできることとなります。これに容器包装リサイクル法対象のプラスチック・紙の容器包装類を、法律に沿って分別排出・分別収集すれば、燃やすごみとして残るものはわずかとなり、燃えすごみ“ゼロ”も決して夢ではないのです。

京都議定書の発効間近、海外からの日本のダイオキシン発生に関する圧力等を鑑みましても、焼却に頼らないごみ行政を行っていく必要があると思います。

最後に、先進事例紹介のビデオがありますのでこれをご覧頂き、富士市の今後のごみ行政への更なるご配慮をいただければ嬉しい限りです。

また、来年度は、「牛乳パックの再利用を考える全国大会」も富士市で開催され、全国から環境に関心のある方たちが集まります。そのときに胸を張って紹介できる富士市の独自のごみ減量システムが動いておりますことを願ってやみません。

以上